

学校名	佐賀市立三瀬中学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> コロナが終息の気配があったが、これまで対応として削減や短縮してきた様々な行事を、以前のように戻すことを考えた場合、自粛期間が長すぎたためスムーズに対応できるかが課題である。この機会を生かし、内容の精選を行い、行事を通して生徒の育成を図る。 小さな学校ならではの長所である「個に対応した学習指導」にさらに磨きをかけ、一人一台端末の活用をはじめ、効率的に理解を深めることができる学力向上を目指していく。 小中一貫教育校として、小学校との連絡・研修を密にし、9年間を見通した学習面および生活面の連携方法を表に示し、徹底を図っていく。
---------------	---

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	①9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み ②学力の向上と自己教育力の育成 ③一人一人を大切に作る教育の推進 ④豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 ⑤国際化・情報化に対応した教育の推進 ⑥教師の資質向上と働き方改革
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

評価項目	重点取組	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 学習の定着に向けたわかりやすい授業の実践	○学習の定着に向けたわかりやすい授業の実践を行う。スモールステップで評価を行い、個別の指導を充実させて、基礎基本の定着を図った教師80%以上。	○学期ごとに職員各自の取組の振り返りを行い、各教科担当の成果指標を達成する。 ・「三瀬校スタイル」を基本とした学習指導の実践において、今後には生かす振り返りの充実を図る。	A	・夏季休業中に、校内研修を通して、本校生徒の全体的な傾向と共通実践事項を共通理解し、1学期の授業における取組の振り返りを、アンケート形式で行った。どの教科も実践確認を繰り返しながら、生徒の学力向上を目指した共通実践をしている。 ・全員研究授業を行い、互いに振り返り、参観し合うことで、2学期以降の指導の改善・充実を図る。	A	・全職員が、研修会や研究授業、日々の授業実践を通して、「指導と評価の一体化を図る単元づくり」と、「指導を生かす振り返りの充実を図る授業」について学びを深め、指導法の改善に取り組んだ。 ・職員アンケートで「学力向上」に係る項目で、肯定的な回答をした教師100%。	A	・校内研修やアンケートを通して、全職員への共通理解や確認、授業へのフィードバックは今後も続けてほしい。 ・定期的なアンケートの実施、課題への取組、研修記の実施により学力向上に努めてもらっている。 ・基礎基本の定着度がわかるアウトプットの部分をしっかりとお願いしたい。 ・学力向上に取り組む先生方の一体感が伝わってくる。	学力向上コーディネーター 研究主任
	○家庭学習の定着と充実 ○考え・伝え合い・ふりかえる」学びの場の充実	・全校生徒に家庭学習ノート(ノート)に取り組ませる。年度初めに担任が取り組み方や内容についてオリエンテーションを行う。曜日ごとに、各教科で点検・指導を行う。 ・県学力調査、おおむね達成基準到達70%以上 ・「授業で考え、伝え合う言語活動を行うことができた」と答える生徒80%以上 ・「単元を通したワークシートから、自分の成長を実感した」と答える生徒80%以上	・授業と場の工夫をし、思考を働かせる活動や対話的な活動を確保する。 ・単元計画、評価基準、ふりかえりを一目で分かる「単元を通したワークシート」を全教科で作成し、教師と生徒が具体的な評価基準を共有する。	・生徒が主体的に学ぶ環境を音読し、対話的な活動を多く取り入れた。 ・家庭訪問で保護者に「家庭学習の手引き」を示し、家庭でのあり方について啓発した。また、生徒にはテスト前に計画表を作成させ、毎日担任が実施状況を確認し、助言した。 ・単元を通したワークシートを全教科で作成することができている。評価基準をワークシートに載せることで、生徒、教師ともに身に付けた資質・能力を意識しながら学習に取り組むことができている。	A	・全学年、全教科、ノートの取り組みを基本とした家庭学習課題に取り組ませた。困り感のある生徒には、各教科担当や担任等が個別に指導・支援を行い、改善に取り組んだ。 ・「授業で考え、伝え合う言語活動を行うこと」について、肯定的な回答をした生徒は97%であった。 ・「単元を通したワークシートから、自分の成長を実感した」について、肯定的な回答をした生徒は78%で若干下回った。	A	・授業において、考え伝え合うことについて成果が見られる。 ・家庭学習の定着については、まだ十分ではないと感じるが、保護者との情報共有・交換・連絡をさらにすすめていただきたい。 ・教科ごとにしっかりと個別に対応してもらっている。生徒の苦手の教科の克服に努めてもらっている。 ・先生方が生徒のやる気を引き出す取組が十分に行われている。 ・テストの復習の重要性を伝え、実践をお願いしたい。	学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的・倫理的な正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・生徒に応じた指導内容を工夫し、「道徳や学級活動は充実している」の設問に肯定的に答える生徒80%以上 ・「人権集会での話は自らの意識を高めた」と答える生徒80%以上	・教師が高い人権意識をもち、学校生活全体を通し、道徳や学級活動の教科指導にあたる。 ・社会科担当と学級担任の連携を図り、差別について正しく理解させることを通し、生徒の人権意識を高める。 ・毎月1回人権集会を開き、教師による講話を実施する。	A	・江戸時代の身分制度の授業について、社会科と特別の教科道徳との連携を図り、差別についての理解と人権意識を高めることができた。 ・毎月の人権集会で、「自分の人権意識を高めることができた」という項目に、97%が肯定的な意見であった。 ・特別の教科道徳や学級活動の時間が充実しているか」という項目に、肯定的な意見の生徒は100%であった。	A	・毎月の人権集会で「自分の人権意識を高めることができましたか」に対して肯定的な意見を回答している生徒が97%であった。 ・特別の教科道徳や学級活動の時間が充実しているか」という項目に、肯定的な意見の生徒は100%であった。	A	・人権意識が高まる授業を毎回実施してもらうことで、生徒のレベルアップが図られている。 ・生徒の人権意識の高揚や道徳、学級活動の時間の充実が認められることは非常に良いことである。 ・今後もこれまでの実践を続け、生徒の豊かな心をはぐくんでほしい。 ・先生方の毎月の人権集会での話は、生徒たちにとって宝物です。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・生徒一人一人が持つ問題や悩みを気軽に相談できる」と答える生徒80%以上 ・教育相談アンケートを実施し、「学校は楽しい」と答える生徒80%以上	いじめ未然防止のため、生徒一人一人が認められ、お互いを大切に、学級の一員として自覚できる学級づくりを行うとともに規範意識の醸成に努める。 ・定期教育相談を年2回実施する。気になる生徒については全職員で共有し、必要に応じてSC等に繋げる。 ・毎月生活アンケートを実施し、生徒が抱える問題や悩みを早期に発見・対応する。 ・SSWやSC等と連携し、必要に応じてケース会議を行う。	「先生に困ったことや悩みは気軽に相談しやすいですか?」の問いに肯定的に答えた生徒は全体の82%であった。 ・教育相談アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒は73%であった。 ・定期教育相談1回目を実施することができた。気になる生徒については全職員で共有することができた。 ・後期22回目の実施する。 ・必要に応じていじめ防止対策委員会を開き、SCにつながる事ができた。 ・後期も必要に応じて行う。 ・後期は、SCによる心の教育に関する授業を計画する。	A	・先生に困ったことや悩みは気軽に相談しやすいですか?」の問いに肯定的に答えた生徒が、全体の97%であった。 ・毎月の生活アンケートや教育相談アンケートの結果をもとに、生徒が希望する教員による聞き取りを実施することができたことと成果と考える。 ・2回目の教育相談アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒は76%と少し増加した。 ・定期教育相談2回目は、担任以外への相談でもよいとしたが、担任への相談が多かった。信頼関係ができていると考えることができるが、いろんな人に話すことへの苦手意識があるのではないかと考えられるため、今後の進め方は検討が必要。 ・気になる生徒について、担任等と相談し、SCにつながる事ができた。 ・SCによる心の授業は、体験活動と取り入れた内容でよい経験となった。	A	・生徒一人一人が話しやすい環境を作られていて、生徒の不安をなくす対応をした結果アンケートの回答に数値としてあらわれている。 ・いじめは、いつ起きるか分からない、あるいは起こるかもしれない危機感を持って、早期発見、早期対応に努めてほしい。 ・SCや担任以外の教職員との情報共有・連携も常に意識してほしい。 ・先生からの語りかけは、生徒にとってうれしいことだと思います。 ・「学校は楽しい」の割合もあがってほしい。	生徒指導主事 教育相談担当	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。また、生徒の出番・役割を保障し承認するとともに、自己有用感を高める。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の三機能を生かした取り組みを実践する。	・外部からの講師を招聘し、学力向上の校内研修を行った。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒88%、「はめるからにはじめる、はじめるを合い言葉に、教職員全体で意識した生徒の自己有用感を高める。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒85%。さらに、将来に対し、夢や希望をもたせる進路指導の充実を図る。	A	・先生に困ったことや悩みは気軽に相談しやすいですか?」の問いに肯定的に答えた生徒は全体の97%であった。 ・毎月の生活アンケートや教育相談アンケートの結果をもとに、生徒が希望する教員による聞き取りを実施することができたことと成果と考える。 ・2回目の教育相談アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒は76%と少し増加した。 ・定期教育相談2回目は、担任以外への相談でもよいとしたが、担任への相談が多かった。信頼関係ができていると考えることができるが、いろんな人に話すことへの苦手意識があるのではないかと考えられるため、今後の進め方は検討が必要。 ・気になる生徒について、担任等と相談し、SCにつながる事ができた。 ・SCによる心の授業は、体験活動と取り入れた内容でよい経験となった。	A	・夢や希望についてもしっかりと取り組まれている、自己有用感を高めるための指導が有効に ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、94%が肯定的な回答であったが、今後もそうい学校であり続けてほしい。 ・何でも悩みは先生に言える学校づくりが進められていると思う。	教務主任 各教科担当	
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実の必要性について肯定的な回答をした教員の割合を90%以上にする。	・特別支援教育校内研修会を年間6回開催し、教員のスキルアップを図る。	・前期に特別支援教育に係る校内研修会を4回開催した。全職員が県内の特別支援教育の現状を踏まえた上で、各自の学校での課題を意識し、指導・支援にあたる事ができた。	A	・特別支援教育に係る校内研修会を予定通り実施した。講師を招聘しての研修では、子どものよりよい行動の引き出し方について学び、各自が日ごとの指導を振り返ると同時に、具体的な支援方法についても考えることができた。	A	・誰一人取り残さない学校が三瀬校の理想です。 ・今後も校内研修会を定期的開催して、学校全体での意識の啓発と具体的な指導や支援等について共有していただきたい。 ・研修会を年4回も実施していただきたことで、しっかり支援の方法を実践してもらっている。	A	特別支援教育コーディネーター
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と答える生徒80%以上	・保健体育の授業において、健康の保持増進のためには適切な運動、食事、睡眠、休養が必要であることを理解させる。 ・食に関する意識調査を実施し、栄養教諭と連携して、望ましい食生活についての知識と実践力を育む。 ・給食たよりや保健たよりを通して啓発を行う。 ・運動部活動への加入や社会体育での活動を推進する。	A	・約95%の生徒が1週間で420分以上の運動やスポーツを行うことができていた。定期的な運動の重要性や効果などを伝え、全生徒が運動すること習慣化できるようにする。 ・食に関する意識調査と生活習慣を振り返る調査を実施し、基本的な生活習慣が健康に大切であることを理解する機会とした。後期は、栄養教諭と連携し、望ましい食生活について授業を計画する。 ・給食たよりや保健たよりを通して啓発を行った。後期も継続していく。	B	・1週間で420分以上の運動やスポーツを行うことができていた生徒が95%から68%に減少した。後期では、3年生が部活動をしなくなり、運動を行う機会が減ったため、定期的な運動をしない生徒が増えた。適度な運動を行うことで、リフレッシュすることができ、家庭学習に集中することができると伝えていきたい。 ・2回目の食に関する意識調査と生活習慣を振り返る調査を実施し、基本的な生活習慣が健康に大切であることを理解する機会とした。今回は、保護者からのコメント欄を作ったところ、どこか家庭もしっかりと記入があり、学校教育に関心の高さを感じた。 ・給食たよりや保健たよりを通して、健康への啓発を行った。 ・栄養教諭と連携した食に関する授業は実施できなかった。	B	・運動習慣の改善や食習慣、食の自己管理能力の育成については、今後とも重点的に取り組んでほしい。 ・栄養教諭と連携した食に関する授業は、年1回は開催してほしい。 ・食育アドバイザーなどの指導を取り入れてみてはどうか。 ・日光浴びなどの重要性がクローズアップされています。外で遊ぶ、特に山や川などの自然の中で遊ぶことを子どもたちが好きになったかと思う。	保健体育主任 保健主事
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員90%以上	・一部活アデー、定時退勤日を設定(毎週水曜日)し進行する。 ・業務データの一元化による業務の効率化。 ・個人の業務内容の見直しと自己マネジメント力の向上。 ・学校健康管理委員会を年3回開催し、勤務時間や年休消化状況を把握し、自己管理の健康管理に努める。	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員は74%であった。定時退勤日の実施を確実にする。 ・業務データにおいては校務サーバーを利用し、効率的に行われている。 ・年次休暇の消化を推進し、12月まで最低5日の取得を遵守させる。	B	・教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員は年間83%であった。 ・PCサーバーを利用した、効率的な業務を遂行することができた。 ・年次休暇取得についてはさらなる向上を期待します。 ・個人の業務効率化に向けてのマネジメント力の向上が課題である。	A	・時間外在校時間自体を削減することが目的ではなく、教職員の心身の健康が向上することが、本人のみならず生徒や学校のためになると思う。 ・教職員の年次取得についてはさらなる向上を期待します。 ・朝早くから勤務されている先生方が負担に感じられていないかが心配。 ・多忙中にも、教職員が生徒と直接関われる時間を少しでも多くしていただけることを希望する。	A	教頭

評価項目	重点取組内容	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
			進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○志を高める教育	○ふるさと三瀬への郷土愛の育成 ○環境教育への関心の向上	・「三瀬を誇りに思う」と答える生徒80%以上 ・「SDG'sや環境ISOに取り組めた」と答える生徒90%以上	・三瀬の自然や生活、社会とかわる体験活動について、計画・体験・まとめ・振り返りの活動を行い、生徒の主体性を育てる。 ・生徒を中心に学期ごとに環境教育について再確認させ、年度末に環境ISOの実践報告を行わせる。	A	・行事ごとに、委員が中心となって活動し、終了後には振り返り用紙を校内に掲示している。「行事時において生徒が主体的に企画・運営を行っている」と思っていますか。の質問に対して、あてはまる生徒は100%で活動の効果を実感していることが分かった。このことから自己肯定感が高まっていると考える。 ・総合的な学習で、「ふるさと三瀬」を系統立てて活動を行っている。3学年通して学習を行ったことで、三瀬の一員として地域に貢献したいという意識が高まっていると考える。 ・環境ISOでは、90%以上が常に意識し、生活することができている。	A	・環境ISOでは、新たに朝清掃を実施した。生徒アンケートで校舎周辺で汚れが気になることを聞き出した。月2回、朝の時間、その場所を清掃した。生徒会の意見からでた活動で年間通して行ったことから、環境美化への意識が高まった。 ・行事ごとに、委員が中心となって活動し、終了後には振り返り用紙を校内に掲示している。全校生徒が積極的に活動に取り組み、「行事等において生徒が主体的に企画・運営を行っていると思いますか。」の質問に対して、あてはまる生徒は100%で活動の効果を実感していることが分かった。 ・総合的な学習で、「ふるさと三瀬」を系統立てて活動を行った。全校生徒が目的意識を持って取り組み、3学年通して学習を行ったことで、三瀬の一員として地域に貢献したいという意識が高まった。 ・「三瀬を誇りに思う」と答える生徒98%。	A	・アンケートの結果が示すように、生徒に郷土愛が着実に育まれていることは非常に良いことである。 ・ふるさと三瀬の環境美化活動は今後も力を入れてほしい。生徒一人一人がふるさと三瀬をより好きになってほしい。 ・人口減少が進んでいる中、三瀬を誇りに思う生徒が増え、三瀬のことを考えてくれることを喜ぶ。 ・環境美化活動では「朝清掃」など新たな取り組みを行い、環境美化の意識を高められたことは非常に評価できる。 ・生徒が今後の三瀬の将来を考えてくれていることが、大変嬉しい。	総合的な学習の時間担当 キャリア教育担当
○小中一貫教育	○小中合同行事の充実	・小中合同の行事、体験活動が「自分のためになっている」という生徒90%以上	・行事や体験活動において、生徒が主体的に企画・運営を行う機会を設定する。	A	・合同行事の各担当が、生徒に考えさせたり、話し合いをさせたりしながら、生徒が中心となって活動できるようにしていた。 ・合同行事の運営が円滑に進むよう、小学部の教務主任と綿密に連絡をとり、調整・準備を行った。	A	・小学部の教務主任とよく連絡をとり、合同行事が円滑に行われ、教育的効果を上げることができた。また、来年度に向けて振り返りを行い、協力して計画を立てることができた。	A	・合同行事については今後、児童生徒数が減少していくことを考えながら対応する必要がある。 ・合同行事の教育効果の向上もさきさきとなら、これらの活動を通して三瀬校の良さを他地区にもアピールしてほしい。	教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上の手立てとして、生徒が主体的に学ぶことを前提にしたICT機器の活用が課題である。生徒一人一人の習熟度に合わせた個人PCの活用や持ち帰りの日常化から、効率的に理解を深めさせたい。 コロナが収束の気配をみせ、これまで削減や短縮してきた様々な行事を、例年通りに戻すことができた。自粛期間が長かったが、スムーズに対応できた。行事を通して生徒が成長していくことを重要視し、これからも内容を精選しつつ取り組んでいきたい。 小中一貫校として、小学校との連絡を密にし、9年間を見通しての子どもの成長を見据え、学習面・生活面の連携を深めていく。
----------------	---